【資料２-４】

津波浸水想定の実施内容

４　津波浸水想定のアウトプットイメージ

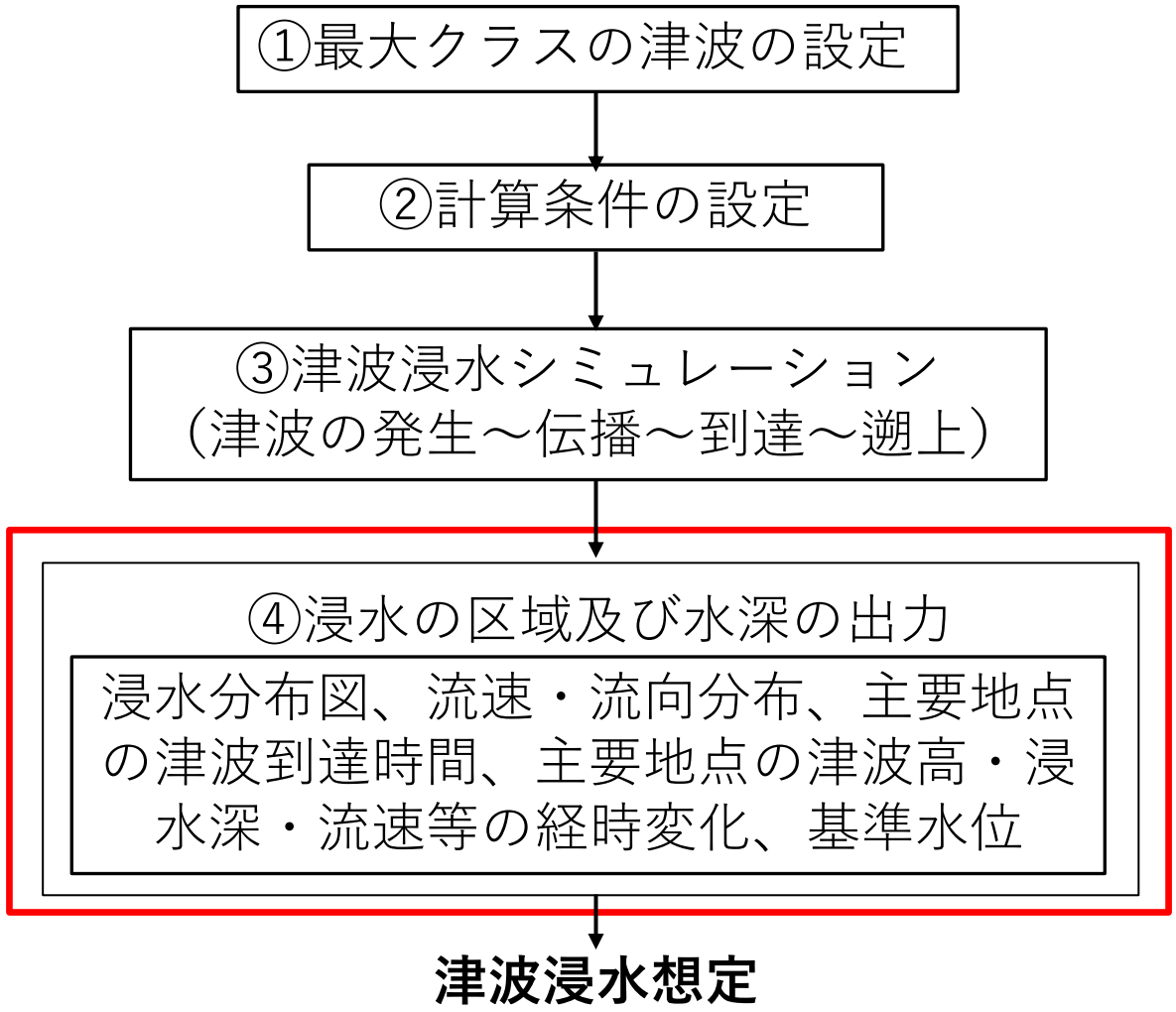
令和７年6月23日(月)

兵庫県防災会議総合部会

津波浸水想定のアウトプットイメージ

（１）津波シミュレーション結果の出力

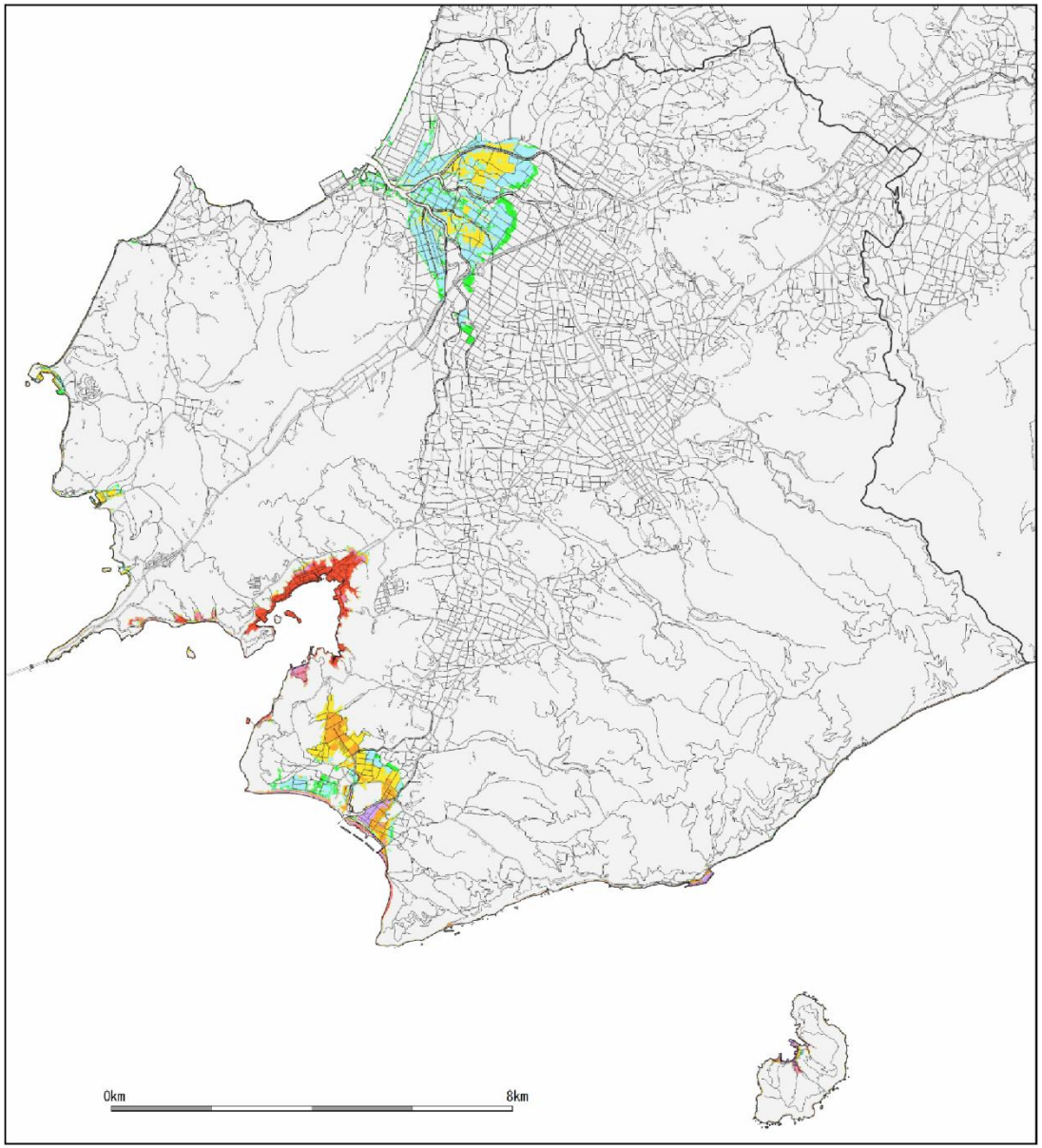
- 陸域への津波遡上による浸水状況がわかるように、津波浸水シミュレーションの結果として、津波浸水想定に定めるべき最大の浸水の区域や水深などを出力するものとする。なお、閾値や配色については、「水害ハザードマップ作成の手引き」に従い、周知の対象となる住民に浸水情報が正確に伝わるようにわかりやすく統一するものとする。

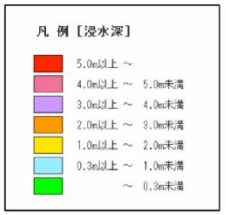


津波浸水想定のアウトプットイメージ

（２）浸水想定図

【兵庫県津波浸水想定図：南あわじ市】





【構造物条件】

条件：施設あり、液状化による沈下あり、天端越流破堤あり

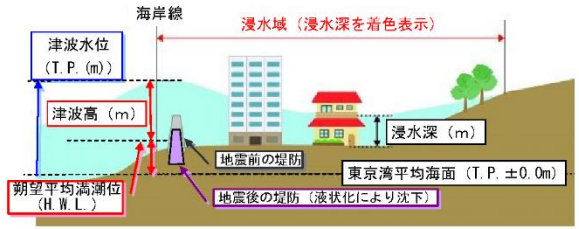
※ 強震動による液状化に伴い防潮堤等の防潮施設は沈下し、さらに、津波が天端を越流したら破堤するとした場合（防潮門扉、水門は全開）

※ 常時閉鎖されている、あるいは、耐震性を有し、自動化され、津波が到達するまでに閉鎖が完了できる施設は「閉」条件とする

海岸保全施設 河川管理施設	地殻変動に 伴う沈下	液状化に よる沈下	防潮門扉 水門の開閉	津波が施設天端を 越流した場合
あり	沈降のみ考慮	考慮	一部閉鎖	破堤

【留意事項】

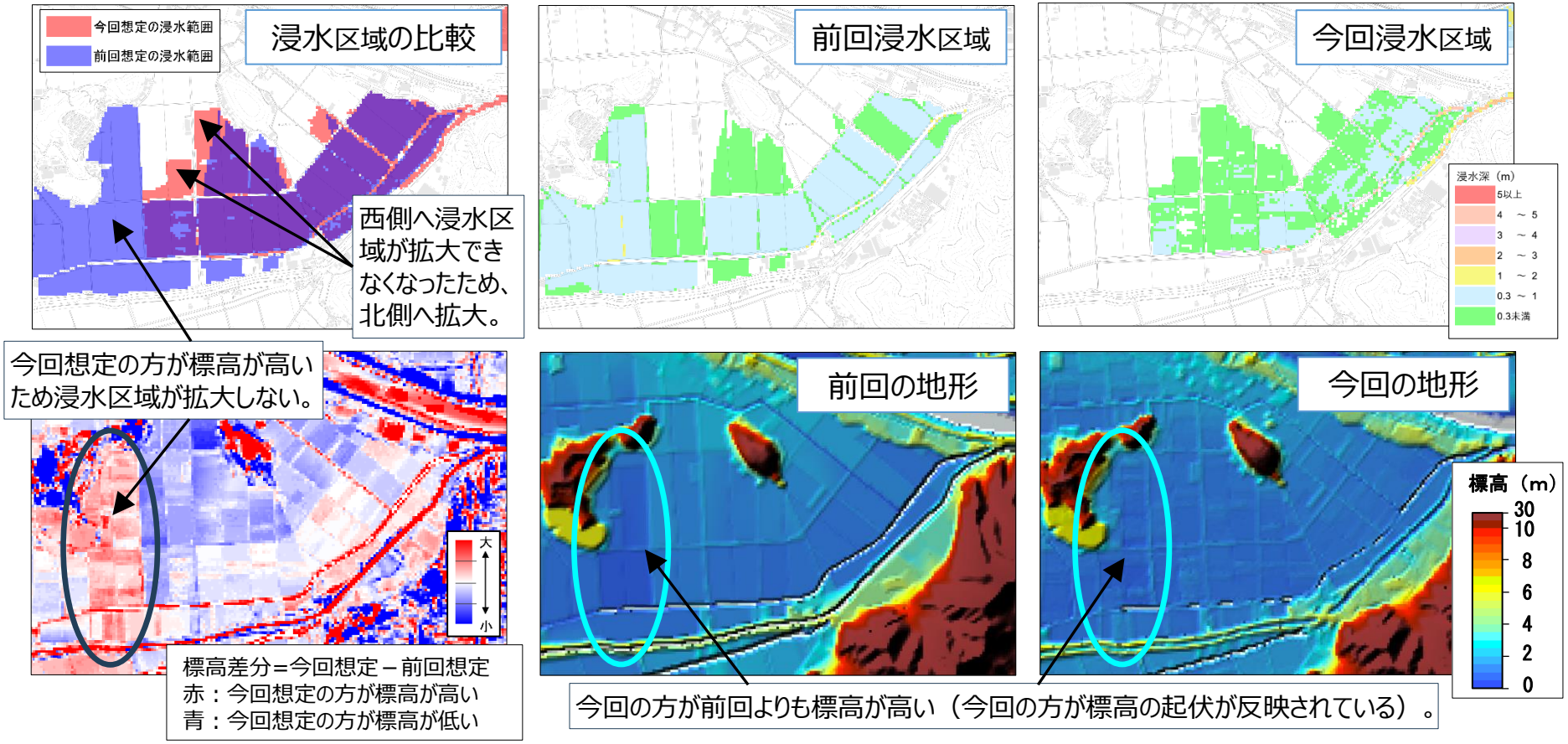
- 「津波浸水想定図」は、最大クラスの津波が一定の条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 実際の災害では、局所的な地面の凹凸や建築物、地震による地殻変動や構造物の変状等の影響を受けるため、計算条件と異なる状況が発生し、浸水域外での浸水の発生や、浸水深がさらに深くなる場合があります。
- 「津波浸水想定図」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。



津波浸水想定のアウトプットイメージ

（２）浸水想定図（前回調査の結果との比較図）

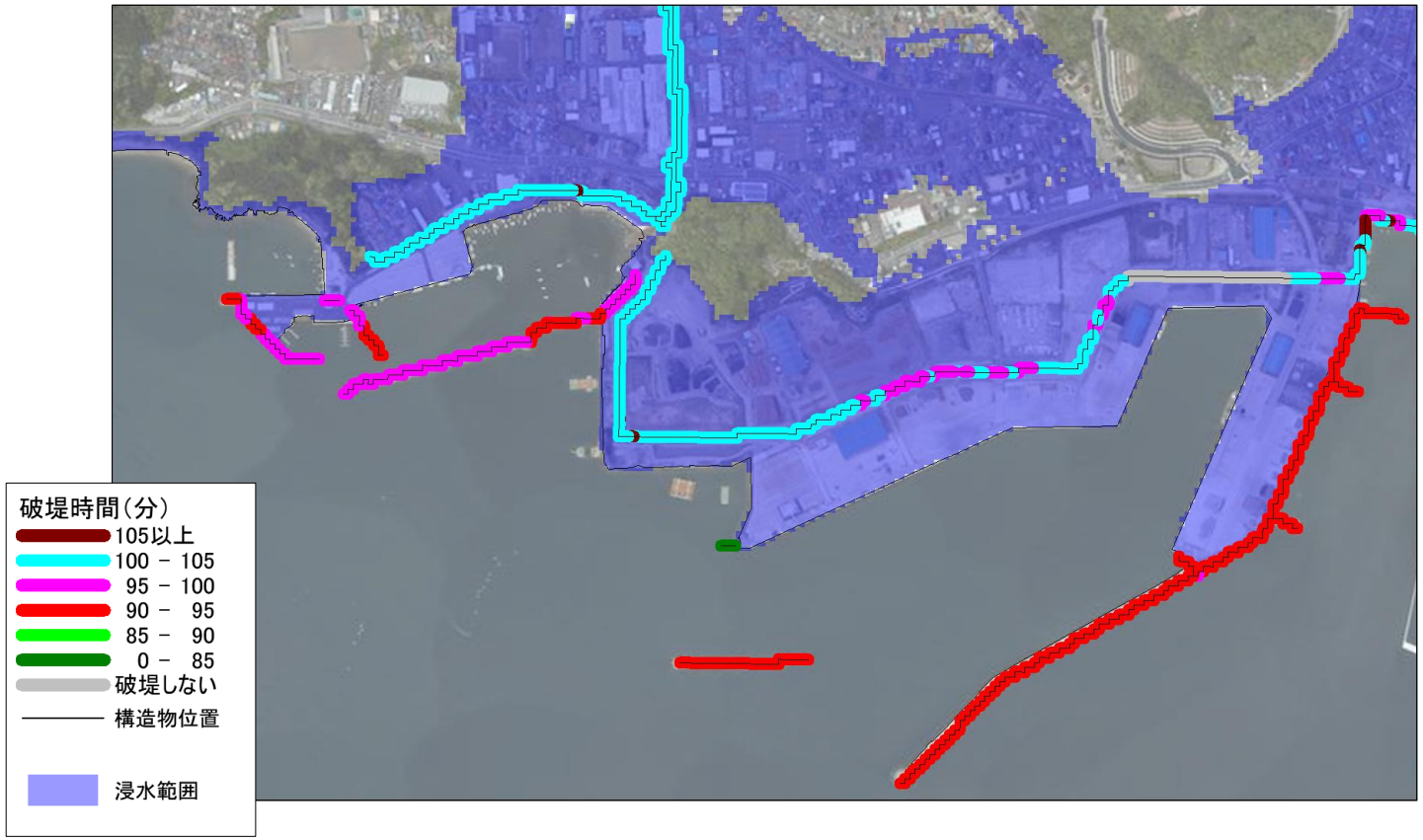
⇒前回および今回の津波浸水区域を重ね合わせて表示し、当該区域での計算モデル（地形、粗度、構造物データ）や津波波源モデル、出力条件の違い等を示すことにより、浸水区域の違いが生じる要因を整理する。



津波浸水想定のアウトプットイメージ

（２）浸水想定図（構造物破堤箇所）

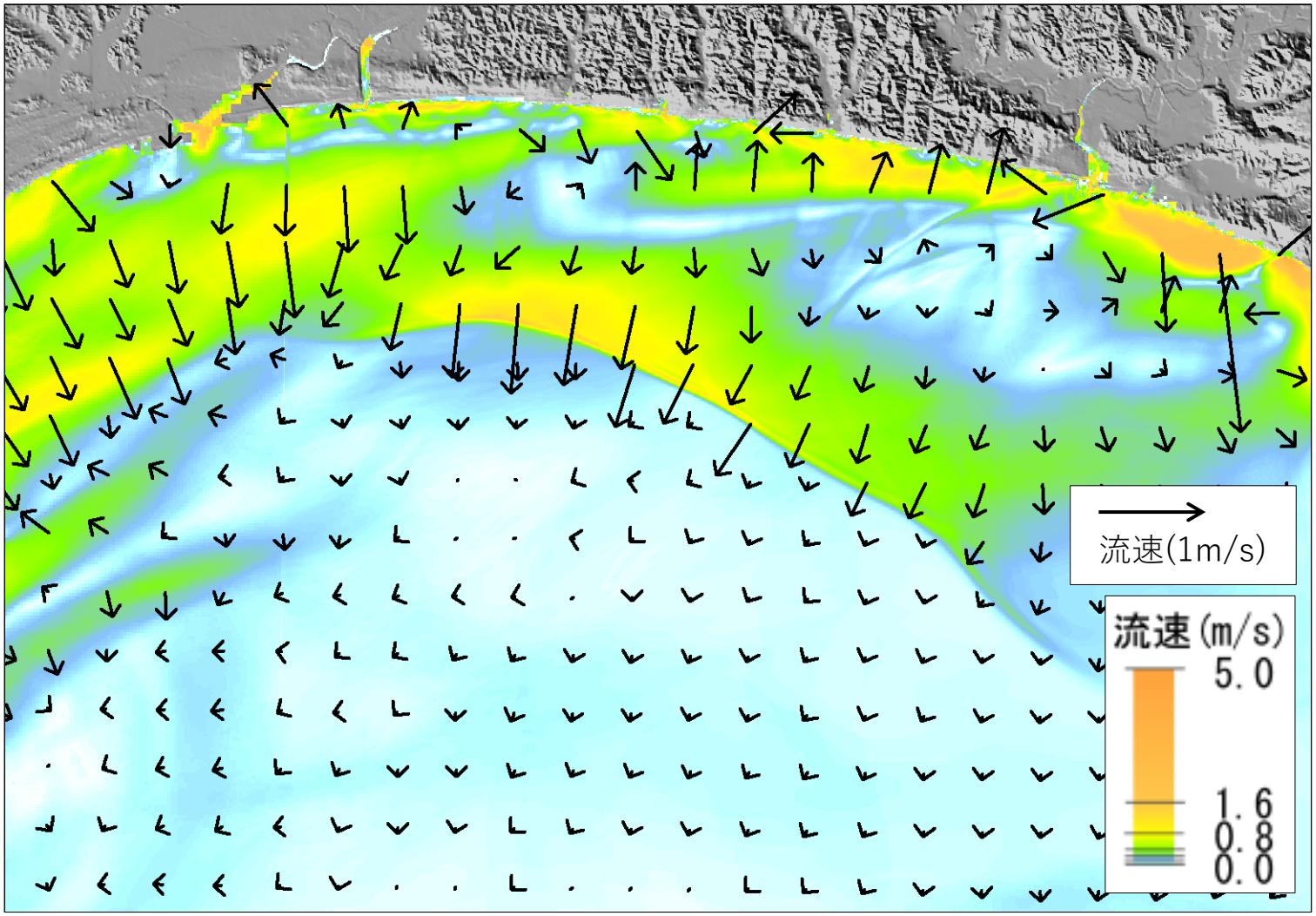
⇒構造物施設の破堤箇所結果データを出力する。破堤箇所（=構造物を越流した箇所）を特定することにより、今後の海岸及び河川津波対策の重点箇所選定のための基礎データとして位置付ける。



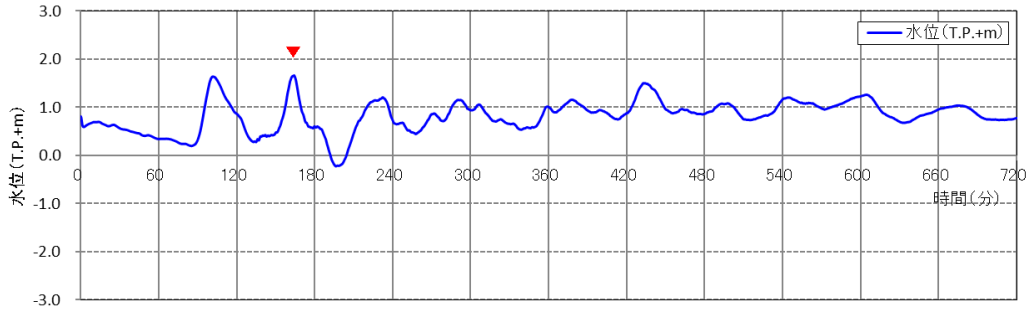
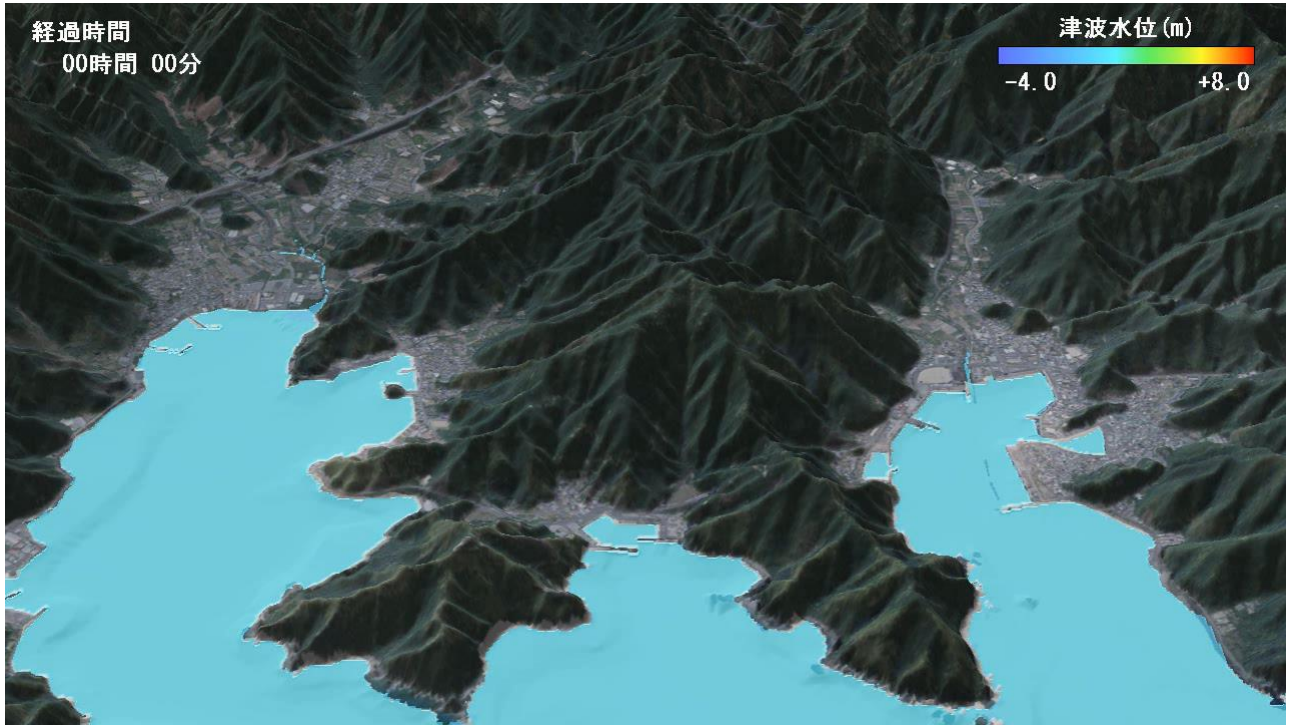
津波浸水想定のアウトプットイメージ

（３）流速・流向分布図

⇒平面図による流速分布、および、ベクトル図による流向を重ねて表示する。



津波浸水想定のアウトプットイメージ

（４）経時変化図

⇒主要地点における津波水位等の経時変化データを出力する。平面図やアニメーションとして作成し、津波の伝播過程、到達時間を時々刻々で表示する。